

# Que Será, Será

VOL.3  
1995  
EARLY  
WINTER



写真中央左は香道具を飾る香棚、その上段には香道具をいれておく乱箱、下段には重硯が飾ってある。  
写真中央は、執筆者が記録をしたためのに用いる文台（熊坂久美子先生提供）

## お香の楽しみ

久診庵 貝谷久宣

### よろこび香

新しき 玉殿にうつりて もろ人の 慕ひ集はむ 君が御栄

あたらしき } 二包内  
とのに移りて } 試一包  
諸人の } 本香 五包  
慕ひ集ふ } 華佗 一  
君が御栄 } 浄心 三 (宮崎幸桂藏)  
吉事 一

下付 國手  
他 ことほぎ

ここに挙げたよろこび香は、私の師、御家流香道桂雪会 理事長熊坂久美子先生が、なごやメンタルクリニクの開院を祝い催して下さったものです。香道になじみのない方のために簡単に組み香の楽しみ方を紹介しましょう。このよろこび香でははじめに寸門多羅(花)こという句いの香銘「都大路」という名の香木がです。次に、佐曾羅(花)香銘は「錦華殿」、真那賀(ウ)香銘「華佗」、そして、真南蛮(三)香銘「浄心」が回されます。これらを試(こころみ)といって、各々の香りと香銘を頭に刻み込みま

す。次に、本香ではこれらのお香にさらに伽羅(一)という句いの香銘「吉事」が加わり五種類のお香が順序不同で回されます。これらを正しく聞き分け(香道では匂いを嗅ぐとは言わない)、名乗紙に毛筆で答を記入します。最初に「浄心」という香銘のマンガンが出てきたならば、「慕ひ集う」と、次に「華佗」、マナカが出れば、「諸人の」と順次書きすすめます。全部正解ならば「國手」とし、それ以外は「ことほぎ」とします。執筆者はこの結果を記録紙に書きとめます(写真)。そしてその組香に出席した連衆の中